

# 令和4年度 募集案内 **福祉用具** **アイデアコンクール**



富山県

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ  
富山県介護実習・普及センター

# 令和4年度福祉用具・アイデアコンクール実施要綱

## 1 趣旨

「豊かな暮らしをつくりだし、生活を支援する福祉用具」をテーマに、高齢者や障がい者の生活の自立支援と介護者の負担の軽減を図り、人々の生活を豊かで快適にする福祉用具のアイデアや作品・製品を広く募集し、優れた応募作品を表彰します。

本コンクールは、人々の暮らしをより向上させる福祉用具への関心を高めるとともに、利用者ニーズを発掘し、県内の優れた産業技術との融合による富山県産福祉機器の開発を目指すことも目的としています。

## 2 募集内容

### (1) 応募資格

県内在住・在勤の個人またはグループ及び県内企業(県内に本社が在する企業に限る)

### (2) 募集内容

	1) アイディアの部		2) 作品の部	
	内容	提出書類	内容	提出書類
① 一般部門 (個人またはグループ)	生活を豊かで快適にする福祉用具のアイデアを募集します。	応募用紙 (様式1)	生活を豊かで快適にする手作りの福祉用具を募集します。	応募用紙 (様式1) 及び 作品
② 高校生部門 (個人またはグループ)	市販製品やリサイクル品を改良し利用するアイデアを含みます。		独自に考案した介護用品、市販製品の改良やリサイクル品への工夫を含みます。	

	内容	提出書類
③ 製品開発部門 (企業・学校・個人)	福祉用具等に関する独自の開発製品を募集します。市販製品、試作品を問いません。 ユニバーサルデザイン、共用品等の福祉関係製品のほか、介護支援ロボットや見守りロボット、コミュニケーションロボット等も対象とします。  ※製品本体の搬入については、別途連絡します。	応募用紙 (様式2) 及び 製品のパンフレット、仕様書等

※ ①、②については未発表の作品に限ります。

※ 非衛生的なもの、壊れやすいものや危険なもの等は全ての部門で募集の対象外とします。

### (3) 応募受付期間 令和4年7月25日(月)～8月24日(水)

### (4) 応募方法

各部門で必要な書類等をそろえ、応募期間内に郵送または直接提出してください。作品については、製作した実物を提出してください。

### (5) その他

優れたアイデア及び作品については作品集に掲載しますので、以下の点にご協力を願います。

- ・ 応募用紙に記載する図やイラストは、できる限り単純・明瞭に記載してください。
- ・ 黒マジックやBの鉛筆を使用する等、濃く記載してください。
- ・ 応募用紙に貼付する写真は、鮮明ではっきりわかる写真を添付してください。
- ・ 使用方法等をまとめた電子媒体等があれば、一緒に提出されても構いません。提出いただいた電子媒体等は、作品と共に返却します。

## 3 審査・表彰等

### (1) 審査

学術関係者、福祉関係者等により構成される審査会において審査します。

一般部門、高校生部門、製品開発部門それぞれにおいて、富山県知事賞を1点、優秀賞を若干数、その他の賞を若干数選出します。

### (2) 表彰

令和4年11月6日(日)の表彰式において各部門の入賞者を表彰します。入賞者には賞状と副賞を贈呈します。

なお、入賞者を除く①、②の個人及びグループ、③の学校及び個人には別途参加賞をお渡しします。

### (3) 作品展示

表彰式当日は、ファボーレ内にて、表彰式終了後は、富山県総合福祉会館(サンシップとやま)にて応募作品を全て展示します。

### (4) 応募作品の取扱

展示終了後、返却します。(返却期間については後日連絡します。)

### (5) 実用新案・特許等について

コンクールでは発表及び展示をします。出願をお考えの方は、事前に実用新案及び特許等の手続きを済ませておいてください。

### (6) 搬入・搬出について

書類及び作品(製品)の送付、搬入・搬出にかかる経費は応募者の負担になります。

また、作品(製品)の送付、搬入出時のやむを得ない事情等により破損した場合の補償はいたしかねますのであらかじめご了承ください。

## 4 主催

富山県

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ 富山県介護実習・普及センター

## 5 後援

一般社団法人 富山県介護支援専門員協会 / 一般社団法人 富山県介護福祉士会

公益社団法人 富山県看護協会 / 一般社団法人 富山県作業療法士会

一般社団法人 富山県身体障害者福祉協会 / 富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会

富山県ホームヘルパー協議会 / 一般社団法人 富山県理学療法士会

富山県老人福祉施設協議会 / 一般社団法人 日本福祉用具供給協会 東海北陸支部 富山県ブロック

応募先 及び  
問い合わせ先

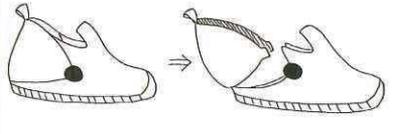
**富山県介護実習・普及センター「福祉用具・アイデアコンクール」係**

〒930-0094 富山市安住町5番21号 富山県総合福祉会館(サンシップとやま)2階

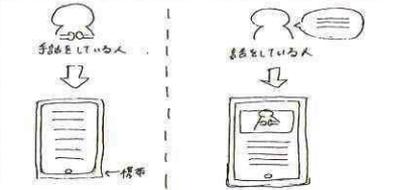
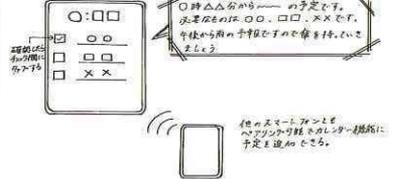
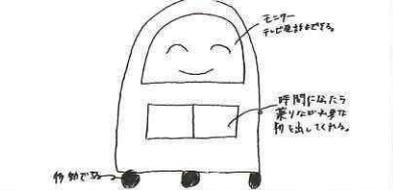
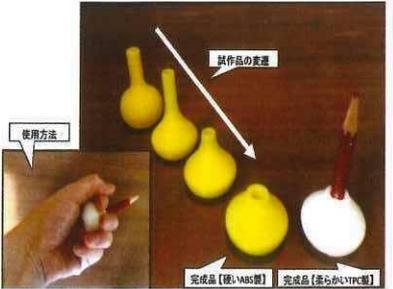
**Tel.076-432-6305 Fax.076-432-6307**

# 令和3年度福祉用具・アイデアコンクール 受賞作品

## ★富山県知事賞

	作品名	作品イメージ	出品者	作品解説
一般部門	どこでもシャワーヘッドホルダー		富山県リハビリテーション病院 ・こども支援センター 森 扶美子さん	入院患者さんの入浴介助中、洗身や洗髪の際に、患者さんから「身体が冷える」「寒い」と訴えられることが多かった。寝台浴を利用される場合も、浴槽から上げて洗身するため、体温低下をきたし易い。浴室内や浴槽にシャワーヘッドをかける位置は固定されており、浴槽、手すり、シャワーチェアなどに付け替え可能なシャワーヘッドホルダーを作製したところ好評で、フル活動中である。クリップの根元にある、滑り止めシートは、シャワーヘッドの太さに応じてクリップの開き具合を調整でき、滑り止めの役割も果たしている。
高校生部門	らくらくシューズ		富山県立八尾高等学校 長澤 美優さん	祖母が足を痛めていて、靴を履くときにスムーズに履けずにいたので、足を痛めている人、不自由な人でも履けるような靴があればいいなと思いこの作品を考えました。靴の底に重さに反応するボタンが入っていて、靴を履くときにそのボタンを踏むと自動でかかと部分が上がり、自動でロッドが上がり、シャワーヘッドの太さに応じてクリップの開き具合を調整でき、滑り止めの役割も果たしている。

## ★優秀賞

	作品名	作品イメージ	出品者	作品解説
一般部門 アイデア部門	手話、音声読みとり機能付き携帯		富山短期大学健康福祉学科 吉田 真帆さん	【きっかけ】 耳が不自由な方とコミュニケーションをとりたかったから。  【使い方】 手話をしている人をカメラで写すと、文字に変換される。話している人の音声をきくと、画面でキャラクターが手話をし、下に文字が出る携帯の機能。
一般部門 アイデア部門	忘れもの防止アプリ		富山大学人間発達科学部 伊藤 ひかるさん	祖母がデイサービスに行く前に母が慌ただしく忘れ物の確認をしており、負担を減らせないと考え、思いついた。忘れ物防止アプリはアプリ内のカレンダーに予定と必要なものを登録していると外出予定時間の15分前に音声で読み上げを行う。画面には確認用のチェックリストが大きな文字で表示させる。また、他のスマホともペアリングが可能になっており、家族等が予定を追加できるようになっている。
一般部門 作品部門	トイレトーパーホルダー		西尾 政治さん	老健で8年間勤務しました。その時にペーパーの取り扱い上、不衛生なところが気になりました。ペーパーを使用するとき、カバー等を手指等で押さえたり、触ったりする機会が多く、衛生面でも問題があり、それを解決する為、改良を思い立ちました。現在コロナが問題となっております。その予防として、家族・施設・旅館等広く使えます。
一般部門 作品部門	絶対倒れない杖		富山市立看護専門学校 チーム杖 畑岸 杏奈さん/畔田 豊乃香さん 得能 小春さん/小川 ここみさん 山下 紗矢さん	買い物時の支払いの時に、杖が倒れ、倒れた杖を拾おうと苦労されている様子を見た。杖を肩にかけられるようにすることで、杖が倒れる心配がないと考え作成した。肩からベルト紐を掛けて使用する。外出時はベルトをつけ、家ではベルトを外して使用する。
高校生部門 アイデア部門	コミュニケーションロボット		富山県立桜井高等学校 伊多 優奈さん	コミュニケーションがとれるロボット。高齢者の異常に気づいて病院に連絡してくれる。薬の飲み忘れもなくなる。電話がかかってくると詐欺師からの電話は切れる。一人暮らしの高齢者が増えていて、孤独死も増えているのでそれを減らすためにこのロボットを考えました。話し相手にもなるので寂しい思いもしません。
高校生部門 作品部門	あなたにピッタリ! 色々鉛筆用自助具		富山工業高等学校 電子機械工学科 6班 端 日菜乃さん/杉本 さくらさん 齊藤 蓮さん/薄島 飛鳥さん 飛弾野 紫苑さん/小橋 美友さん	人を助けられるものにづくりに挑戦したい、と考えていた私たちは、高校の課題研究の授業で、具体的なアイデアを探していました。その中で、ある学校の生徒さんから、手が不自由でも字や絵を自分の手で描くことができるような自助具を作ってほしい、という要望を受け、製作を始めました。依頼主である生徒さんからのビデオレターにより身体状況を確認し、私たちの班の中で様々なアイデアを出し合いながら、3DCADと3Dプリンターを活用して試作を繰り返しました。また、試作品に対する生徒さんの意見や作業療法士さんの専門的なアドバイスも頂きながら、何回も工夫・改善を重ねました。特徴としては、形状の修正や材料の変更が簡単にできることで、より握りやすく手の負担を減らせることです。操作性と筆圧が向上し、色鉛筆などの色が濃くなることです。少しでも持ちやすくすればいいな、と思いながらやっと完成することができました。ぜひ使ってもらいたいです。

高齢になっても、障がいがあっても、誰もが快適に安心して過ごすための「あったらいいな!」を考えてみませんか?  
みなさんのご応募お待ちしております!